

平成20年度

事業報告書

財団法人 東京都農林水産振興財団

目 次

平成20年度事業報告の概要	1
1 後継者等対策事業	3
(1) 新規就業者支援事業	3
(2) 経営活動促進事業	5
(3) 都民交流事業	5
(4) 林業労働力確保支援センター事業	8
2 経営安定対策事業	11
(1) 野菜価格安定対策事業	11
(2) 農地保有合理化事業	12
(3) 農地と担い手マッチング事業	14
(4) 畜産振興事業	15
3 農林水産資源拡大事業	18
(1) 青梅畜産センター事業	18
(2) 栽培漁業センター事業	19
(3) 奥多摩さかな養殖センター事業	20
4 森林整備事業	22
(1) 分収林事業	22
(2) 都民との協働による森林づくり事業	24
(3) 都行造林管理事業	28
(4) 花粉発生源対策事業	29
(5) 木質バイオマス事業	31
5 緑の募金・緑化推進事業	32
(1) 緑の募金事業	32
(2) 苗木生産供給事業	35
(3) 東京の活力を創出する都市緑化の推進事業	37
6 環境保全型農業の推進事業	38
(1) 堆肥生産供給事業	38
7 農林総合研究センター事業	39
(1) 試験研究事業	39
(2) 受託研究事業	43
(3) 調査・分析等業務	43
(4) 技術相談・依頼試験・試験機器の利用公開	43
8 情報提供・普及啓発事業	44
(1) 森林総合利用事業	44
(2) 総合情報提供事業	46
(3) 食育推進事業	47

平成20年度事業報告の概要

平成20年度は、後継者育成や森林整備、野菜価格安定対策など生産者の経営安定等に必要不可欠な公益性の高い事業に取り組むとともに、「農林総合研究センター」においては、現場に密着した総合的な試験研究に取り組んだ。また、財団法人という経営形態を活かし、外部資金や共同研究などを活用し、機動的に各種事業や試験研究を実施した。

また、都の重点事業である花粉発生源対策事業に引続き取り組み、募金や「企業の森」等の手法を活用して、スギ等を伐採し、花粉の少ない森づくりを進め、東京の林業の活性化を図ってきた。

さらに、農業分野では、農業の多様な担い手を確保し、農地の保全を図るため、情報バンクや実践農業セミナーの運営を行い、都民の農的活動への参入を進め、農地と農的活動を志向する都民とのマッチングを進めるなど、新たな事業への取組みを積極的に進めた。

1 後継者等対策事業

- (1) 「青年等就農促進」事業として、就農希望の青年等に対し、就農相談や就農に要する資金の貸付を行った。
- (2) 後継者団体の自主的な活動に対し、ニーズに対応し、重点課題に取り組めるよう、「戦略的課題研究支援」などの支援を行った。
- (3) 生産者と都民との交流を一層促進していくため、「地産地消」をテーマとした都民交流事業を実施した。また、消費者や学童に、食や命の大切さを理解してもらうため、畜産ふれあい体験事業を実施した。
- (4) 林業労働力確保支援センターにおいては、国からの委託を受けて林業への就業希望者を研修する「林業就業支援」を実施した。

2 経営安定対策事業

- (1) 法律などに基づく野菜価格安定対策事業、畜産振興事業は、農家の安定的経営に不可欠な事業であり、着実かつ迅速な事業執行を行った。
- (2) 農地保有合理化事業では、島しょ地域を中心に不耕作地解消に取り組んでおり、現地推進会議や担当者会議を開催し、関係機関と密接な連携を図った。八丈町において売買並びに賃借事業を292アール実施した。
- (3) 情報バンクの運営や実践農業セミナーの運営を行い、都民の農的活動への参入を促進した。また、農作業の受委託を推進し、労働力の不足した農家からの要望に応え、意欲ある農家とのマッチングを進めた。
- (4) 補給金の交付に備えて基金を造成するなど、肥育農家である生産者の経営安定を図った。

3 農林水産資源拡大事業

- (1) 青梅畜産センターにおいて、「トウキョウX」、「東京しゃも」、「東京うこっけい」等の種畜を生産・配付するとともに、農家への技術指導を行い、東京の畜産業の振興に貢献した。
- (2) 栽培漁業センターにおいてアワビ、トコブシ、サザエの種苗の生産・配付を実施して島しょ地域の磯根資源の維持増大に貢献した。
- (3) 奥多摩さかな養殖センターにおいてニジマス、ヤマメ、イワナ、奥多摩やまめの種苗の生産・配付を実施することで、内水面の資源維持と地域産業の活性化に貢献した。

4 森林整備事業

- (1) 分収林事業については、既契約地の間伐・枝打・巡視等の保育管理を実施した。
- (2) 都民との協働による森林づくり事業における「奥多摩・武蔵野の森」、「奥多摩共生の森」等において、「シカ被害地造林対策」と連携して事業を実施した。
- (3) 都行造林管理事業では、水源涵養や国土保全、地域林業の振興のため、間伐や枝打などの保育管理を行った。
- (4) 花粉発生源対策では、東京都からの出えん金をはじめ、都民や企業からの募金等を活用してスギ林等を主伐し伐採跡地に花粉の少ないスギ等を植栽することで、花粉の少ない森づくりを進めるとともに、伐採した木材の活用により木材需要を拡大することで東京の林業の活性化を図った。
- (5) 木質バイオマス事業については、剪定枝や未利用材を原料としたチップを東京都下水道局へ安定的に供給するためのチップ製造施設の整備を行った。

5 緑の募金・緑化推進事業

- (1) 緑の募金では 4,903 万円を集め、ボランティア団体・自治会・区市町村等に助成金を交付し、森林整備や都市緑化を推進した。また、ポスター等による広報活動や各種イベントに参加するなど、緑の募金活動の推進を図った。
- (2) 苗木生産供給事業では、都の計画に基づき緑化用苗木約 29 万 7 千本を購入し、公共事業・施設向けに苗木供給を行い、緑化を推進した。
- (3) 東京の貴重な都市農地の保全、都市の緑化を目的として、「緑の地産地消」をコンセプトにした地域における緑化プロジェクトを推進した。

6 環境保全型農業の推進事業

- (1) 東京都有機農業堆肥センターにおいて 577 トンの優良堆肥を生産し、有機農法の実践農家に対して供給を行った。

7 農林総合研究センター事業

- (1) 「農林総合研究センター事業」を都から受託して、農林業の振興を図るため調査・試験・研究を行うとともに、農林業者や都民に対する技術支援や情報提供を行った。
- (2) 外部から研究資金を積極的に導入し、受託研究、企業等との共同研究に取り組み、都民に役立つ研究を実施した。
- (3) 都からの委託を受け、調査・分析業務を実施した。
- (4) 生産者等からの技術相談等に応じ、都民サービスの向上に努めた。

8 情報提供・普及啓発事業

- (1) 森林を活用して、都民が自然に親しみ、交流を深めることにより都民参加の森林づくりを推進した。
- (2) 「東京農業WEBサイト運営事業」、「東京森と木WEBサイト運営事業」を受託し、財団ホームページとの連携を図り、都民に対して農林水産業、特産品、食の安全安心等の情報を総合的に提供した。
- (3) 子供たちに「食」に関する知識を伝え、健全な食生活を実践できる人材を育成するため、学校教育現場での生活体験学習を推進した。

平成20年度事業報告書

1 後継者等対策事業

将来の農林水産業を担う後継者等に対し、資金の貸付や各種研修への参加、自主研究活動等の奨励、配偶者確保の支援などを行った。

また、新しい事業展開や経営の高度化を目指す農林水産事業者に対する技術習得の支援などを行うことによって、活力ある東京都の農林水産業振興の推進に努めた。

さらに、都民を対象に畜産とふれあえる体験交流会や畜産料理体験教室を開催し、都市畜産の果たす役割や食育の推進を図った。

(1) 新規就業者支援事業

① 青年等就農促進

東京都から指定を受けた「青年農業者等育成センター」として、青年農業者が円滑に就農できるよう支援を行った。

ア 就農相談

相談員（2名）が就農相談に対応し、新規就農者の支援を行った。また、全国新規就農相談センター主催の「新規就農相談会」に参加し、就農相談を行った。

【就農相談件数】

227件（内訳：本所 90件、分室 69件、相談会 68件）

イ 就農支援資金の貸付

新規就農者に対して、就農に必要な資金を無利子で貸し付けた。

【平成20年度貸付実績】

種 類	内 容	実 績
就農施設等資金	施設の設置	2件 12,260千円

ウ 青年農業者等育成

東京都農林水産業技術交換大会の開催、全国農業青年交換大会等への派遣など青年農業者の研究、交流活動を支援した。

【開催、参加行事等】

名 称	期 間	開 催 場 所	参 加 者
東京都農林水産業技術交換大会	H20.6.12	立川市女性総合センター・アイム	農林漁業者 143名

エ 新規就業実態調査

平成19年度に新規就農した農業者40名を対象に、就農動機や将来の経営方針などについて調査を実施した（回答率 50.0%）。



農林水産技術交換大会 開会式



最優秀賞:JA 東京みらいきよせ施設園芸研究会

② 研修等支援

就農する農業後継者の技術向上を目的とした研修活動に対し支援を行った。

ア 研修助成

農業後継者の研修、F & Uセミナー等へ助成を行った。

項 目	対象者	内 容
公立機関等研修への助成	5 名	研修先：農林総合研究センター 期 間：1 年 科 目：野菜 3 名、果樹 2 名
	1 名	研修先：独立行政法人 農業・食品産業技術研究機関 期 間：1 年
先進経営体への研修	1 名	研修先：イッセイ花園（栃木県日光市） 期 間：1 年
意欲的農業者支援セミナー特別研修	8 名	経営アグリビジネススクール（大阪、香川）3 回
	9 名	地産地消シンポジウム（12月11日）
F & U 農業後継者セミナー（協賛）	95 名	主 催：東京都、東京都農業協同組合中央会 期 間：H20.4～H22.3
八丈町農業担い手育成研究センター研修	3 名	研修先：八丈町農業担い手育成研究センター 期 間：1 年

イ ふれあい交流会の実施（配偶者確保対策事業）

都内の独身青年農業者と女性との交流会の開催及び地域の交流会への助成を行った。

項 目	規 模	内 容
会いにおいでよ！東京の農業と農業青年～カレー作りと乳しぼり体験～	男性：15 名 女性：16 名	日時：9 月 2 0 日 場所：(財)東京都農林水産振興財団青梅庁舎
ふれあいボーリング大会	男性：11 名 女性：8 名	日時：1 1 月 2 2 日 場所：新宿ミラノボウル
出合い ふれ愛 フレッシュいちご狩り～東京の農業青年と秋川バスツアー	男性：18 名 女性：18 名	日時：2 月 2 1 日 場所：立川北口～あきる野市内いちご園～ファーマーズセンター～立川駅
地域ふれあい交流会への助成	5 団体	① J A 東京みらい青壮年部（34 名） ② J A 東京みどり青壮年部（31 名） ③ J A 東京スマイル青壮年部（28 名） ④ J A 八王子青壮年部（46 名） ⑤ 立川市農研会（34 名）



会いにおいでよ！東京の農業と農業青年～カレー作りと乳搾り体験～



出合いふれ愛フレッシュいちご狩り

ウ 新規就業者奨励

新規就業者の意欲高揚を図るため、市区町村から推薦された平成19年度新規就業者（40名）に対し、奨励賞を交付した。

（２） 経営活動促進事業

① 自主活動支援

財団に登録された後継者団体の自主的な活動に対し支援を行った。

【支援内容】

区 分	計 画	実 績	主 な 活 動 内 容
自主研究活動	14団体	12団体	牛糞、剪定枝チップ、微生物資材の利用によって、良質な堆肥の作製と病害虫の発生状況について
研修活動助成	15団体	17団体	伊豆大島直売活動と食育活動の調査研究他
合 計	29団体	29団体	

② 研修活動支援

後継者団体が実施する視察研修に対する助成を行った。

【支援内容】

区 分	計 画	実 績	内 容
視察研修	25団体	18団体	① 東村山グリーンプロジェクト （千葉県、園芸展示会、植木市場の視察） ② J A東京みどり国立地区青壮年部 （北海道、先進直売所の視察）他

（３） 都民交流事業

① 生産者と都民の交流

「地産地消」をテーマとした生産者と都民との交流会を開催した。

日 時	場 所	参加者	主 な 内 容
H20.8.26	八王子市	34名	夏休み八王子農家見学会
H20.10.4	西東京市	30名	西東京市農家との交流会
H20.11.16	東久留米市	雨天により中止	東久留米農家交流会
H20.11.24	東大和市	66名	東大和市農家交流会
H20.12.11	立川市女性総合センター（アイム）	100名	地産地消シンポジウム



夏休み八王子農家見学会



地産地消シンポジウム

② 食と農の体験事業

ア) 畜産ふれあい体験事業：畜産ふれあい体験や飼育管理体験の実施、バター・アイスクリーム作り体験など行い、畜産に対する理解の促進、消費活動を推進した。

区 分	計画	実績	内 容
畜産ふれあい体験事業	7回	7回	【春の家畜ふれあいデー】4月26日財団青梅庁舎 ・内容:家畜とのふれあい,料理教室,乳牛コンテスト,のらぼう菜摘み 【「食」と「いのち」の話】7月11日小笠原母島小・中学校 ・内容:小・中学校、大人を対象にした、講演とアイスクリーム作り体験 【夏休み親子畜産教室】8月7・8日財団青梅庁舎 内 容:搾乳体験、心音体験など 【秋の家畜ふれあいデー】10月25日財団青梅庁舎 ・内 容:畜産物展示販売、搾乳体験など 【大島牛乳を使った料理・加工体験と家畜ふれあい体験】 12月7・8日伊豆大島(牛乳向上前広場、カリアビレッジ、岡田保育園) 内容:大島牛乳や食材を使った料理教室、家畜とのふれあい 【移動ミニ教室】日時・場所:1月27日・新宿区立東戸山小学校 ・内容:家畜とのふれあい、講演 【農畜産物調理教室】日時・場所:3月24日・財団青梅庁舎 ・内容:TOKYO-X肉,三倍体ヤマ,東京うこっけい肉での調理教室

イ) 農業体験・食育事業：種まきや収穫体験などの農業体験、料理教室や食育講話などの食育活動を実施し、農業に対する理解の促進を図った。

区 分	計画	実績	内 容
農 業 体 験・食育事業	4回	4回	【青梅青年会議所との連携による子供たちの食育体験】 日時・場所:5月～9月 財団青梅庁舎 内 容:青梅周辺の中学生の農業体験など 【がんばる女性の交流会】日時・場所:1月22日 財団青梅庁舎 内 容:西多摩地域の特産品(ユズ・ウメ)を使った料理方法の検討 【江戸東京野菜の復活と食育活動】 ・品川大長カブ(品川区立小中一貫校 伊藤学園) 1月27日収穫、1月28日給食時に食べる ・寺島ナス(墨田区立第一寺島小学校) 1月19日播種、3月6日台木に接木



夏休み親子畜産教室で心音体験



かぼちゃの柚子ジャム煮をつくる

③ 東京の青空塾

農業に関心を持つ都民の参加・協力により、農業者と都民との交流を図りながら、新しい農業の担い手である援農ボランティアの養成及び活動の支援を行った。

ア 援農ボランティアの養成

各地区の援農ボランティアを養成するため、講義及び実地研修を行い、認定証を交付した。

また、地域推進組織への支援として、東村山市、三鷹市の開講式及び閉講式等への出席や推進活動資材「エコバック」を作成、新規地区の掘り起こしを行った。

計 画	実 績	地区数	備 考
40名 (1地区 10名)	54名	4地区 ※新規地区 なし	(内訳) 三鷹市(9)、東村山市(7)、西東京市(8)、 国分寺市(30)

イ ボランティア傷害保険加入推進

各地区で活動中の援農ボランティアに対し、傷害保険の加入推進及びその手続きを行った。加入者数は270名(小平市、羽村市、三鷹市、府中市、東村山市、杉並区)で、うち新規は81名、継続は189名であった。

ウ 援農ボランティア活動調査

援農ボランティアの受入農家の状況について調査を行った。事業に取り組んでいる10市について調査の取りまとめを行った結果、93戸の農家が322名のボランティアを受け入れている。また、援農ボランティア数の内訳として、新規88名、継続234名であった。



援農ボランティア養成講座

(4) 林業労働力確保支援センター事業

「東京都林業労働力確保支援センター」として、新規の就業や林業従事者の育成のほか林業事業体の雇用管理の改善など林業労働力確保と労働環境の改善のための支援事業を実施した。

① 森林整備担い手確保対策（林野庁補助事業）

区 分	計画	実績	実 施 内 容
○林業事業体経営合理化支援事業 就労安定指導員による事業体経営指導活動	年間 1名	年間 1名	○指導員活動日数：延べ12日 ○活動地域等：多摩川・秋川・浅川流域 の林業事業体
○基幹林業就業者等養成事業 技術研修（派遣研修）	8人	8人	I 車両系建設機械技能講習 開催場所：コマツ教習所(株)東京センター 参加者数：計7名 (1) 車両系建設機械 開催日 平成21年1月24日～29日 3名 (2) 小型移動式クレーン 開催日 平成21年1月17日～19日 2名 (3) 玉掛け（無制限） 開催日 平成21年1月24日～26日 2名 II チェンソー作業従事者特別教育講習 開催場所：財団日の出庁舎 開催日 平成21年1月21～22日 参加者数：1名



車両系建設機械技能講習



小型移動式クレーン技能講習

② 地域林業雇用改善促進

区 分	計 画	実 績	実 施 内 容
ア 相談指導事業 林業雇用改善アドバイザーを委嘱し、都内の林業事業体に対し、林業雇用労働の実態の把握と労働環境の改善についての巡回指導、相談及び求人求職相談を実施。	1 人	1 人	○相談実績 ・求職：73件、研修：106件、取材：1件 ・相談方法（電話166件、来訪14件） ○森林の仕事ガイダンス ・実施日：平成21年1月23, 24日 ・相談者数：218名
イ 雇用情報 収集・提供 雇用情報誌「林業労働力雇用情報」第21・22号を発行し、求人・求職者に情報提供	2 回	2 回	○雇用情報誌の配布先 ・47都道府県労務支援センター ・国、都、市町村（林業・労働関係機関） ・森林組合及び林業関係団体
ウ 研修事業等 林業雇用改善セミナーの開催	1 回	1 回	実施日：平成21年2月17日 会場：財団日の出庁舎研修室 講師：多野東部森林組合 新井和子組合長 テーマ：「昨日より今日、今日より明日」 参加者：53名



林業雇用改善セミナー



森林の仕事ガイダンス

③ 林業就業促進資金貸付

区 分	種 類	貸付件数	貸付金額	備 考
林業就業促進資金貸付	就業研修資金	0	0	(平成16年：1件)
	就業準備資金	0	0	

④ 宿舍借り上げ助成

区 分	計 画	実 績	実 施 規 模	備 考
新規就労者宿舍借上助成	5 棟	3 棟	東京都森林組合 5 棟	
季節労働者宿舍借上助成		2 棟		

⑤ 緑の雇用担い手対策事業

区 分	計画	実績	実 施 内 容
緑の雇用担い手対策事業 高度化研修 風倒木処理(集合研修)	20日 3名	20日 3名	○内容 台風等の多様な被害木等の処理の実習 ○開催日 7/3～9/3 研修場所：森林組合、日の出町、檜原村、奥多摩町の森林



風倒木処理実習



緑の担い手育成研修生（前列）

⑥ 林業就業支援

区 分	計画	実績	講習内容
林業就業支援講習 年2回 春期：18日 秋期：20日	36日	38日	【内容】○林業と山村地域の現状○森林と林業の知識 ○林業労働安全教育○刈払機作業講習○チェーンソー 作業講習○現地講習○グループ討議○施設見学○実 地講習○就業・生活相談 【日時】 平成20年4/15～5/13 8名 平成20年10/16～11/13 12名

○研修場所

- ・財団立川庁舎、日の出庁舎
- ・多摩木材センター協同組合
- ・奥森ハウス
- ・現地講習（八王子、青梅市の森林）

- 林業機械講習実施機関：林災防東京都支部
労働安全講義，
林業機械（チェーンソー・刈払機）の取扱い及び構造



講習：チェーンソーの取扱い

2 経営安定対策事業

(1) 野菜価格安定対策事業

平成20年は、キャベツなどの夏野菜は、出荷量の増加等により卸売価格が低下傾向となり、農業資材価格の上昇など経営環境の悪化とあいまって来年度以降の再生産への悪影響も憂慮される事態となっている。

〔平成20年実績〕

(単位：t、千円)

項 目	計 画	実 績	前年度実績	備 考
出荷数量	4,929	3,262	4,185	
資金造成総額	53,239	53,239	106,543	
補給金交付額	—	28,675	65,525	

〔野 菜 別 内 訳〕

野 菜 名	出荷計画(t)	出荷実績(t)	補給金交付額	備 考
こまつな	0	0	0	
カリフラワー	0	0	0	
ブロッコリー	0	0	0	
ほうれんそう	0	0	0	
キャベツ	4,342	2,858	26,660	
秋冬だいこん	0	0	0	
冬にんじん	587	404	2,015	
合 計	4,929	3,262	28,675	

(注) 計画、実績ともに平成20年1月から12月までの数値である。



市場へ出荷される新鮮な東京産野菜

(2) 農地保有合理化事業

地域農業生産基盤の保全とその振興を目的として、農業振興地域における遊休農用地の効率的再利用をはかるため、「農地保有合理化事業推進プラン(5ヵ年計画)」に沿って地元関係機関との密接な連携のもと、積極的な事業推進を行った。

八丈町においては、農地保有合理化事業を活用し、農業の担い手と後継者の本格的育成を目的とする「農業担い手育成研修センター」の開設(平成20年4月1日)に貢献した。

また一方、農地保有合理化事業の普及拡大をはかるため、各種リーフレットをはじめ、事業概要等の作成配布を行うとともに、急増する農地に対する相談事案に対応するため、相談コーナーの設置等事業推進体制の整備を行った。

① 農用地買入及び借入実績

区 分	事 項	件 数	面 積	備 考
本年度新規保有	買 入 農 地	1 件	3,398 m ²	農地保有合理化事業 推進プラン(5ヵ年 計画)における20年 度事業計画 規模 20,000 m ²
	借 入 農 地	4 件	25,761 m ²	
	計	5 件	29,159 m ²	
年度末保有農地	買入保有農地	5 件	39,007 m ²	
	借入保有農地	12 件	128,497 m ²	
	合 計	17 件	167,504 m ²	

② 保有農用地の運用状況

区 分		件 数	面 積	備 考
本年度新規貸付農地		5 件	29,159 m ²	
内 訳	一時貸付後売渡農地	1 件	3,398 m ²	八丈島
	貸付農地	4 件	25,761 m ²	八丈島・三宅島
既存貸付農地合計		17 件	167,504 m ²	

③ 農地保有合理化事業の普及啓発の実施

実施項目	実施対象者	実 施 内 容	
事業推進連絡調整業務	国・都・全国協会 市町村・J A 等	21回/年	①国・都・全国協会等との事業調整 ②各県との事業連絡調整 ③市町村に対する事業説明・指導等 ④JA連合会等との事業推進調整 等
農地流動化 現 地 対 策 会議の開催	市町村・農業委 員会等関係機関	5回/年	八丈町 4回・大島町 1回・神津島 村 1回 ①事業推進課題について ②体制整備(駐在員設置等)について ③事業毎の方針検討について 等
相談等件数	都内及び周辺県	57回/年	①農地保有合理化事業制度について ②農地のあっせんについて ③農地の売却について ④農業生産法人等の設立について ⑤企業参入について 等
資料等配布	市町村・農業委 員会等関係機関	①農地保有合理化事業の概要 ②事業リーフレット(全国協会版) ④ふぁーむらんど44・45号・46号(全国協会版) ⑤平成20年度版農地保有合理化事業関係通知 集(全国協会版) ⑥平成21年度版カレンダー(財団版)	

(3) 農地と担い手マッチング事業

情報バンクの運営や実践農業セミナーの運営を行い、都民の農的活動への参入を促進した。また、農作業の受委託を推進し、労働力の不足した農家からの要望に応え、意欲ある農家とのマッチングを進めた。

これらの取り組みにより、農業の多様な担い手を確保し、農地の保全を図った。

①農地と担い手情報バンクの設置運営

農地と担い手の情報バンクを設置し、情報の収集・蓄積・登録を行い、遊休農地と農的活動を志向する都民とのマッチングを推進した。

項 目	件 数	内 容
農地情報登録	14カ所	青梅市2カ所、あきる野市2カ所、日の出町4カ所、町田市3カ所、八王子市3カ所
担い手情報登録	46名	実践農業セミナー2期生
マッチング農地	4カ所	八王子市3カ所、日の出町1カ所

②実践農業セミナーの運営

「自ら耕作できる技術を持った人材」を育成するため、東京都が開設した実践農業セミナー（研修場所：八王子市、研修期間：2カ年）の運営・支援を行った。第1期生42名が修了し、農家開設型農園の利用、中学校の農業実習指導、農作業受託組織への参加など、各地域で活躍することとなった。

受講生	講義回数	実習回数	内 容
第2期生 対象46名 2年目	5回	3回	野菜栽培実習、生産履歴の記帳、農薬の適正使用講義、栽培管理コンクールの実施、農作物の販売事例研究等
第3期生 対象48名 1年目	9回	9回	野菜栽培の基礎技術の実習・講義、栽培管理コンクールの実施等

③農作業受委託推進事業

高齢や労働力が不足した農家と意欲ある農家や高い技術を持った都民等とのマッチングを進め、農作業の受委託を推進した。

受託組織登録数	委託相談数	受委託マッチング数
2件	6件	2件

(4) 畜産振興事業

牛肉の自由化が肉用子牛の価格等に及ぼす影響に対処するため、肉用子牛の四半期平均売買価格が下落し、国が定めた保証基準価格を下回った場合に補給金を生産者に交付し、肉用子牛生産の安定を図った。また、肥育牛1頭当たりの四半期平均推定所得が基準家族労働費を下回った場合に生産者に補てん金を交付するのに備えて基金を造成し、肉用牛肥育農家の経営の安定を図った。20年度は、世界的な穀物相場の上昇により、配合飼料価格が高騰し、畜産経営を圧迫したため補給金及び補てん金を交付した。あわせて、肉用牛生産者の収益性の改善を図るため、4つの緊急対策事業を実施した。

①肉用子牛価格安定対策事業

ア肉用子牛生産者補給金交付

肉用子牛の品種ごとに生産者 1/4、都 1/4、(独) 農畜産業振興機構 1/2 の割合で生産者積立金(基金)の造成を行なった。

(独) 農畜産業振興機構が品種・四半期ごとに算定した肉用子牛の平均売買価格が、国の定めた保証基準価格を下回り、生産者に補給金を交付した。

- ・生産者積立金の造成 (生産者 1/4、都 1/4、機構 1/2)

(単位：円/頭)

区 分	頭 数	単 価	積 立 金 額	負 担 金 額		
				機 構	東京都	生産者
黒毛和種	59 頭	9,900	584,100	292,050	146,025	146,025
交雑種	11 頭	5,000	55,000	27,500	13,750	13,750
乳用種	23 頭	12,700	292,100	146,050	73,025	73,025
合 計	93 頭	—	931,200	465,600	232,800	232,800

(平成19年1月から12月個体登録牛に係る積立金)

- ・保証基準価格等 (単位：円)

区 分	保証基準価格(7月から変更)	合理化目標価格
黒毛和種	305,000 → 310,000	267,000
交 雑 種	178,000 → 181,000	135,000
乳 用 種	113,000 → 116,000	80,000

(平成21年3月末日現在)

- ・保証基準価格－合理化目標価格＝独立行政法人農畜産業振興機構が全額交付
- ・合理化目標価格を下回った場合は、生産者積立金を取崩し、差額の9/10を交付

- ・生産者補給金交付実績

交付対象のべ生産者数	4 戸
交 付 対 象 頭 数	2 6 頭
補給金交付合計額	7 0 7, 6 0 0 円

イ 子牛生産拡大奨励事業

- ・黒毛和種繁殖雌牛飼養者 22 戸

子牛価格低落時に肉専用種繁殖雌牛の拡大及び維持農家に奨励金を交付する事業であるが、本年度は黒毛和種の子牛平均売買価格が奨励金交付の基準を上回る水準で推移したため、奨励金交付は行われなかった。

② 肉用牛肥育経営安定対策事業

肥育牛 1 頭当たりの四半期平均推定所得が基準家族労働費を下回り、生産者・中央畜産会の 2 者で造成した生産者積立金（基金）から、基準家族労働費の 8 割を上限として補てん金を交雑種及び乳用種で生産者に交付した。

＜ 1 頭当たり基準家族労働費 ＞

肉専用種 74,422 円

交 雑 種 41,310 円

乳 用 種 28,455 円

- ・生産者積立金の造成（平成 20 年 1 月～12 月に積立金徴収月齢を迎えた牛）

（単位：円）

区 分	頭 数	積立金 単価	積立金額	負 担 金 額	
				中央畜産会	生 産 者
肉専用種	200 頭	27,200	4,841,600	3,631,200	1,210,400
交 雑 種	15 頭	18,000	252,000	189,000	63,00
		33,200			
乳用種	20 頭	21,200	742,000	556,500	185,500
合 計	235 頭		5,835,600	4,376,700	1,458,900
割 合	—		100%	75%	25%

※交雑種単価：7 月から変更

- ・補てん金交付実績

区分	頭数	補てん金額
肉専用種	162	4,932,900 円
交雑種	20	360,000 円
乳用種	28	635,600 円
合 計	210	5,928,500 円

③ 肉用牛生産者経営支援緊急対策

配合飼料価格の急騰による肉用牛生産者の収益性低下の改善を図るため、4つの緊急対策事業を実施した。

ア 肉用子牛資質向上緊急支援事業

繁殖経営の収益性の改善を図る上で、肉用子牛（黒毛和種）の資質向上に取り組む生産者の子牛の市場取引価格が基準価格を下回った時、支援交付金を交付した。

- ・交付実績：対象頭数 3頭 交付金額 90,000円

イ 肥育牛生産者収益性低下緊急対策事業

肉用牛肥育経営における収益性の著しい悪化に対処するため、生産性向上計画に取り組む肉用牛肥育経営安定対策事業契約生産者に対し、四半期ごとの生産費のうち、物材費割れの6割を特別補てん金として交付した。

- ・特別補てん金交付実績

区分	頭数	補てん金額
肉専用種	57	1,037,400円
交雑種	14	645,400円
乳用種	18	157,200円
合 計	89	1,840,000円

ウ 肉用牛肥育経営安定対策事業

肉用牛肥育経営安定対策事業の地域基金のうち、交雑種の残額が枯渇状態になったため、補てん金の満額交付が困難となった。この状況を改善するため、生産者積立金の単価を変更した。

- ・積立金単価（交雑種） 18,000円→33,200円（7月～）

エ 肥育牛経営緊急支援事業

肉用牛肥育経営における収益性の悪化に対処するため、生産性向上等の計画的な取組を行う肉用牛生産者が出荷した肥育牛のうち、早期出荷等一定の条件を満たした牛に対し奨励金を交付した。

- ・奨励金交付実績

区分	頭数	補てん金額
肉専用種	71	355,000円
交雑種	14	70,000円
乳用種	12	60,000円
合 計	97	485,000円

※10ケタの耳標を装着した契約肥育牛



3 農林水産資源拡大事業

種畜、種苗などの農林水産資源を生産・配付して、農林水産業振興に資するために以下の事業を実施した。

(1) 青梅畜産センター事業

安全で高品質な肉や卵を都民に供給するため「トウキョウX」、「東京しゃも」、「東京うこっけい」等の種畜の生産・配付を行った。また、種畜等の維持改良を行い、効率的、計画的に供給し、農家への技術指導等を行った。

種畜生産・配付実績

平成 20 年度種畜配付規模

種 畜 の 種 類		計 画	実 績
トウキョウX (雄)	種豚	40 頭	17 頭
〃 (雌)	〃	120 頭	61 頭
東京しゃも		24,000 羽	19,758 羽
軍鶏交雑種		80 羽	153 羽
ロードアイランドレッド		1,000 羽	1,863 羽
東京うこっけい		10,000 羽	14,664 羽
受託孵化	種卵	12,545 個	19,375 個

上記に関わる飼育・技術指導・安全衛生管理を行った。



トウキョウX豚



東京しゃも



東京うこっけい

(2) 栽培漁業センター事業

アワビ・フクトコブシ・サザエ種苗の生産・配付等を東京都から受託し実施した。

①種苗生産

		計 画	実 績	実 施 内 容
種 苗 配 付	アワビ フクトコブシ サザエ	1 5 万個 8 0 万個 5 5 万個	1 5 万個 8 0 万個 5 5 万個	島しょの4漁協1村へ配付 島しょの5漁協2村へ配付 島しょの5漁協1村へ配付
	合 計	1 5 0 万個	1 5 0 万個	
種 苗 生 産	アワビ フクトコブシ サザエ	1 5 万個分 8 0 万個分 5 5 万個分	1 5 万個分 8 0 万個分 5 5 万個分	平成21年度配付用種苗の採卵・ 飼育を実施した
	合 計	1 5 0 万個分	1 5 0 万個分	



種苗配付（サザエ種苗の取り上げ作業）

②試験研究

- ・アワビ類配合飼料選定試験

環境適応力が強く、耐病性のある種苗を生産するため、新餌料の導入、適正給餌方法等を検討した。

③災害対策種苗生産

		計 画	実 績	実 施 内 容
種 苗 配 付	フクトコブシ サザエ	2 0 万個 2 0 万個	2 0 万個 2 0 万個	三宅島へ配付 三宅島へ配付
	合 計	4 0 万個	4 0 万個	
種 苗 生 産	フクトコブシ サザエ	2 0 万個分 2 0 万個分	2 0 万個分 2 0 万個分	平成21年度配付用種苗の採卵・飼育を実施した
	合 計	4 0 万個分	4 0 万個分	

(3) 奥多摩さかな養殖センター事業

東京都の委託契約に基づき冷水性魚類の種苗を生産して、河川漁協・養殖漁協に配付を行い、内水面の資源を維持するとともに、内水面漁業者の経営の安定化及び地域産業の活性化に寄与した。また、生産種苗の質の維持向上及び魚病対策を行った。

① 種苗生産

ア ニジマス、ヤマメ、イワナ、奥多摩やまめを生産し配付した。

魚 種	サイズ	計 画	実 績	実 施 内 容
ニジマス	稚魚 ・春稚魚 ・秋稚魚 発眼卵	25万尾 5万尾 20万尾 21万粒	25万5千尾 3万8千尾 21万7千尾 13万5千粒	養殖漁協及び1河川漁協へ配付 養殖漁協及び4河川漁協へ配付 養殖漁協へ配付
ヤマメ	稚魚 ・春稚魚 ・秋稚魚 発眼卵	24万5千尾 20万尾 4万5千尾 100万粒	30万4千尾 22万2千尾 8万2千尾 122万9千粒	養殖漁協及び3河川漁協へ配付 養殖漁協及び3河川漁協へ配付 養殖漁協及び4河川漁協へ配付
イワナ	発眼卵	10万1千粒	13万5千粒	養殖漁協及び1河川漁協へ配付
奥多摩やまめ	発眼卵 夏稚魚	9万粒 2万尾	6万粒 1万4千尾	養殖漁協及び1河川漁協へ配付 養殖漁協及び1河川漁協へ配付

イ 上記に関わる飼育・魚病対策の技術指導を行った。



写真：ヤマメの検卵（左）と稚魚配付（右）

② 試験研究

種苗生産事業に関して、下記の試験・研究を実施した。

○冷水魚優良種苗育成試験

- ・ヤマメ斑紋の遺伝的劣化を防止するため、斑紋の優良な親魚を選抜採卵した。
- ・生産した奥多摩やまめ発眼卵について倍数性を判定した。
- ・奥多摩やまめ飼育業者の飼育経過を調査した。
- ・奥多摩やまめ振興協議会に参加し、奥多摩やまめの PR や加工品の開発を行った。
- ・IHN 抗病系選抜魚の親魚養成を行った。
- ・IHN 抗病系親魚から作出した稚魚の試験配付を行った。

○魚病診断及び疾病別対策研究

- ・所内で発生した魚病の診断、治療を行った。
- ・島しょ農林水産総合センターによる管内養殖業者の魚病診断に協力した。

○IHN 抗病性品種の作出試験

- ・2 g 及び 8 g のサイズの魚に対して IHN ウイルスによる攻撃試験を行い、抗病性の高い系統を選抜した。

4 森林整備事業

(1) 分収林事業

長期の木材価格の低迷により、分収林事業の採算性は極度に悪化している。このため、分収造林事業は、平成11年度から新規契約を休止している。分収育林事業については、既契約地の保育管理（間伐・巡視等）を実施した。

① 二者分収造林事業

契約地の保育管理実績

(単位面積：ha、経費：千円)

市町村	巡 視		除 伐		シカ柵	
	面積	経 費	面 積	経 費	面積	経 費
奥多摩町	0.60	0	0.25	42	0.53	1,911
青梅市	2.91	0	2.63	529	0.92	3,650
檜原村	3.10	0	3.10	452		
計	6.61	0	5.98	1,023	1.45	5,561



間伐を実施した分収造林



シカ柵を設置した分収造林

② 二者分収育林事業

契約地の保育・管理実績

(単位は面積：ha、経費：千円)

市町村	既契約地(元～18年度)					
	巡 視		間 伐		枝 打	
	面積	経費	面積	経費	面積	経費
奥多摩町	307.71	776	5.95	1,991		
青梅市	67.70	170	6.43	1,953		
日の出町	1.89	5				
あきる野市	36.90	93				
桧原村	114.65	289	4.64	1,417		
八王子市	30.06	76				
計	558.91	1,409	17.02	5,361	0	0



間伐を実施した分収育林

③ 三者分収育林事業

平成１８年度で保育作業が終了し、巡視による管理を実施した。

(単位は面積：ha、経費：千円)

契約 年度	森の名称	管 理			伐採 年度
		内容	面積	経費	
H9	百尋	巡視	10.07	25	H32
8	奥多摩湖畔	巡視	13.58	34	29
7	古里	巡視	8.96	23	32
6	深沢	巡視	9.32	23	28
5	川のり	巡視	10.57	27	28
4	栃寄	巡視	10.32	26	28
3	神戸	巡視	7.02	18	28
2	人里	巡視	5.01	13	26
	計		74.85	189	

④ 森林整備地域活動支援

新たな制度として、平成１９年度からスタートしたが、市町村（交付者）の対応が整わないため、事業未実施

(2) 都民との協働による森林づくり事業

① 二俣尾・武蔵野市民の森

平成13年度に山林所有者、武蔵野市、財団の3者間で協定書を締結した「二俣尾・武蔵野市民の森」において事業を実施した。

区 分	計 画	実 績	実 施 内 容
・ 運営協議会	2 回	2 回	・ 年間スケジュールの調整 市民の森の活用方法等の検討 森林の整備方針等の検討 市民の森事業の活動紹介の検討
・ 森林整備・管理	1 式	1 式	・ 下刈、間伐、歩道改修、間伐材搬出利用、 森林巡視、管理棟塗装等
・ 森の市民講座	4 回	4 回	・ 講座：東京の森の話 活動：森から集めた 素材を利用したリース作り等を実施した。
・ 動植物生息・生態調査 (H14から継続調査)	1 式	1 式	・ スギ・ヒノキ林で行う間伐等森林施業が動 植物に与える影響を調査した。



森林の整備(間伐)



森の市民講座

(武蔵野市役所で講座後にリース作り体験)

② 奥多摩・武蔵野の森

武蔵野市、奥多摩町、財団の三者による森林整備協定(平成17年3月締結)に基づき、奥多摩町内のシカ被害地の森林の復旧事業を行った。

項 目	実 施 内 容	
全 体 計 画	・ 整備箇所 ・ 面 積 ・ 植栽樹種 ・ 協定期間 ・ 整備内容	奥多摩町氷川字逆川（通称：ウスバ地区） 3.3ha ミズナラ・ケヤキ・クリ等広葉樹 10年間 シカ柵整備、植栽、作業路整備、丸太柵工、 見回管理
20年度実績	・ 森林整備等 ・ 運営委員会	見回管理、下刈、歩道改修、植生調査等 奥多摩町・武蔵野市と森林整備方針について検討



施工前（2005.08.29）



施工後（2008.08.08）

シカ柵等の設置による植生の回復状況

③ 奥多摩・昭島市民の森

昭島市、森林所有者、財団による三者で締結した分収林契約に基づき、奥多摩町の裸山の整備を行った。

項 目	実 施 内 容
全 体 計 画	・ 整備箇所 奥多摩町氷川字大沢入 ・ 面 積 1.44 ha（除地0.21 ha） ・ 植栽樹種 花粉の少ないスギ、ヒノキ、郷土樹種（ヤマザクラ等） ・ 契約期間 50年間 ・ 整備内容 植栽、下刈、除・間伐、枝打等、シカ害対策
20年度実績	・ 森林整備等 下刈、森林巡視 ・ イベント 昭島市主催で年2回「森林教室」を実施（1回は林道が通行止めになったため中止）



全景（下刈実施後）



シカ柵・単木ネット（H17年度設置）

④ 企業の森（航空電子グループの森）

企業の支援による森林整備事業として、日本航空電子工業株式会社、森林所有者、財団の三者で締結した分収林契約に基づき、奥多摩町の裸山の整備を行った。

項 目	実 施 内 容
全 体 計 画	・ 整備箇所 奥多摩町氷川字大沢入 ・ 面 積 1. 3 3 ha ・ 植栽樹種 ヒノキ、郷土樹種（コブシ等） ・ 契約期間 5 0 年間 ・ 整備内容 植栽、下刈、除・間伐、枝打等
20年度実績	・ 森林整備 下刈、森林巡視 ・ イベント 平成20年7月3日 航空電子社員による下刈



航空電子グループ「環境報告書2006」より



航空電子社員による下草刈り

⑤ 奥多摩共生の森

平成15年度より、未済造林地の土地所有者である奥多摩町と35年間の使用契約を結び、森林を造成する「奥多摩共生の森整備事業」を実施した。

森林の整備に当たっては、財団の各種事業を活用し、不足する資金を都民から広く募金を集めた。

項 目	実 施 内 容
全体計画	・ 整備箇所 奥多摩町氷川字大沢入（奥多摩町有地） ・ 面 積 11.30ha（除地1.78ha） ・ 植栽樹種 スギ、郷土種（トチノキ等） ・ 整備期間 35年間（植栽は、15～17年度） ・ 整備費用 全体計画 57,200千円（募金目標 21,000千円）
20年度実績	・ 森林整備 下刈、シカ対策（シカ柵、捕植）、森林巡視等



全景写真



記念植樹会

(3) 都行造林管理事業

水源涵養、国土保全、公有財産の造成及び地域林業の振興を目的に、東京都から管理を受託した多摩地域の都行造林地について、下記のとおり各種作業を実施した。

① 都行造林管理内訳

事業		面積	箇所数	植栽年度
都行造林管理		825.78ha	70	昭和6～48年度
	御大典記念	83.96ha	4	昭和6～15年度
	2600年記念	130.19ha	11	昭和17～28年度
	御成婚記念	472.03ha	50	昭和35～49年度
	オリンピック記念	139.60ha	5	昭和41～48年度
多摩森林の育成		359.39ha	65	昭和56～平成7年度
計		1,185.17ha	135	

②平成20年度保育施業

(単位:ha)

事業名	作業種	計画	実績
多摩森林の育成	間伐	17.18	17.18
	枝打	57.80	57.80
	保育施業計	74.98	74.98
都行造林管理	除伐	14.62	14.62
	保育施業計	14.62	14.62



間伐作業後



枝打作業後

(4) 花粉発生源対策事業

東京都からの出えん金（25 億円）をはじめ都民や企業からの募金等を財源に、スギ林等を主伐して伐採跡地に花粉の少ないスギ等の苗木を植栽する主伐事業を平成 1 8 年度から実施し、東京の林業の活性化を図った。

この事業を支えるため、花粉の少ない森づくり運動を展開しており、その一環として企業・団体に支援してもらう企業の森に取り組んでいる。企業の森では、企業、森林所有者、財団の三者で10年間の森林整備に係る協定を結び、協賛企業は森林整備等の費用を負担するが、対象となる森林に名前をつけて、社員研修や自然学習の場として利用できるほか、これらの社会貢献活動をCSR報告書等でPRすることができる。

項 目	計 画	実 績	実 施 内 容
①スギ林等の購入及び伐採・搬出等	8 0 ha	60.86ha (46 件)	○専門調査員を委嘱（2 名） ○森林所有者への P R 及び候補地の開拓、交渉（申込累計 7 7 件） ○購入契約実績 60.86ha(46 件) （累計）142.03ha(91 件） ○伐採・搬出契約実績 51.26ha(13 件※） ※件数には既契約の変更追加(0.74ha)分は含まない。 （累計）92.37ha(31 件） うち、伐採・搬出完了 11.46ha(6 件） （累計）37.96ha(19 件） ○搬出材積 10,172 m ³ (累計 19,482 m ³)
②木材の販売	木材の販売	市場及び合板・チップメーカーへの出荷	○建築材として多摩木材センターに出荷、販売 ○合板、チップ等への販売 ○販売実績 9,154 m ³ (累計 17,823 m ³)
③植栽・保育管理	植栽等の実施	植栽・下刈・補植を実施	○植栽・保育管理契約実績 30.26ha(17 件) （累計）110.26ha(58 件) ○植栽委託 7.40ha(1 件 3 箇所) ○下刈り委託 9.05ha(1 件 9 箇所) ○補植委託 16.74ha(8 件 8 箇所) ○シロ被害造林対策 3.02ha(1 件 1 箇所)
④貯木場の管理運営	入出荷材の管理等	スギ丸太の選別と一時保管を実施	○入荷 トラック 1,521 台（累計 3,097 台） 10,172 m ³ (累計 19,482 m ³) ○出荷 9,154.747 m ³ （累計 17,823.164 m ³) ○施設概要 ・場所：青梅市新町六丁目 8 番 ・敷地面積：1.35ha ・格納庫兼管理棟：283 m ² （格納庫 201 m ² 、管理棟 82 m ²) ・委託先：（協）多摩木材センター

項 目	計 画	実 績	実 施 内 容
⑤ 花粉の少ない森づくり運動	1 億円	20,590 千円	○「企業の森」協定締結 第5号 エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 「企業の森・NTTコムウェア（青梅）」 2.88ha 第6号 株式会社エムオーテック 「企業の森・エムオーテック（あきる野）」 3.56ha ○東京都、関係機関と連携し、都民や企業等からの募金活動を実施 ○森づくり支援倶楽部の運営 ○各種イベントの実施 ・一斉 PR 活動の展開 ① 駅貼・電車広告等ポスター掲出 ② キャラバン隊の実施（5箇所） ③ 展示コーナー設置（10箇所）ほか



「企業の森・NTTコムウェア（青梅）」

協定締結



「企業の森・エムオーテック（あきる野）」

企業代表者による斧入れ

(5) 木質バイオマス事業

東京都産業労働局からの補助事業により、農林業分野から発生する剪定枝や未利用材の木質バイオマスを原料としたチップの生産を行い、東京都下水道局へ安定的に供給するためのチップ製造施設等の整備を行った。

1. 施設の概要

所在地：東京都西多摩郡奥多摩町氷川 1074 他

敷地面積：987.5 m²

規模：鉄骨造り、平屋建 188.5 m²



写真1：チップ製造施（表側）



写真2：チップ製造施設（裏側）

2. 整備機械一覧

機 械 名 称	数 量	写 真	主な仕様等
チップ製造機	1		最大製造能力 100 m ³ /時間
グラップルローダ	1		原材料をチップ製造機に投入
ホイールローダ	1		バケット容量 0.9 m ³
チップ運搬車輛 (コンテナ脱着式)	1		最大 27 m ³ (5.4 t) 積載可能

5 緑の募金・緑化推進事業

(1) 緑の募金事業

① 緑の募金活動

20年度の募金目標額は、19年度と同様の8,000万円とし募金活動に取り組んだ。募金実績は4,903万円、目標額に比し61%の達成率であり、19年度実績より約874万円減となった。

20年度は、東京都が進めている「花粉の少ない森づくり運動」に協力するとともに、引き続き日刊紙やポスター等による緑化運動啓発のための広報活動をはじめ、「緑の募金街頭キャンペーン」など各種イベントに参加し、森林の整備や街の緑を増すことの大切さ、地球温暖化防止などをアピールし、緑の募金活動の推進を図った。

(単位：千円)

(単位：千円)

団 体 別	募 金 額
区市町村	15,479
学校（公立・私立）	3,338
東京都庁	2,663
企業団体	5,200
ボーイスカウト	2,179
ガールスカウト	2,711
事業指定募金	15,544
東京緑化推進委員会	1,920
合 計	49,034

種 別	募 金 額
家庭募金	9,027
街頭募金	5,607
職場募金	5,977
企業募金	20,419
学校募金	3,338
そ の 他	4,666
合 計	49,034



街頭募金キャンペーン

② 森林の整備・緑化推進

ア ボランティア団体等の実施する森林の整備事業への助成金交付

・ 16 団体 2, 892 千円

イ 自治会等の森林づくり事業への助成金交付

・ 2 箇所 1, 313 千円

地 域	事 業 名 及 び 事 業 内 容	事業費 (千円)
奥多摩町 氷川	「ドコモ奥多摩の森整備事業」 1. 0 ha ドコモ社員による下刈り研修 57 名	313
奥多摩町 氷川	「松葉の杜里山再生事業」 0. 5 ha ヤマザクラ、モミジ、ヤマツツジ等の植栽 525 本	1, 000

ウ 募金協力団体による緑化推進事業への助成金交付

・ 32 区市町村 39 件 6, 788 千円

・ 2 団体 5 件 1, 423 千円

・ 2 校 2 件 110 千円

エ 学校及び社会福祉施設緑化事業への助成金交付

・ 3 校、3 施設 1, 199 千円

オ 東京の森づくりモデル事業（木下沢都有保健保安林の活用）

・ 検討委員会の開催、広場の造成、遊歩道の設置、案内看板等の森林の整備
5, 250 千円



北区緑化事業



「松葉の杜」植樹会

③ 普及啓発

ア 募金PR事業

事業名	事業内容
緑化ポスター原画募集	応募状況 171校 1,131点 入賞 25点
緑化標語募集	応募状況 1,228点 入賞 22点
交通機関によるPR	都営交通全車両 4月13日～4月19日
緑の募金PR用花壇	東京ドーム 9月1日～12月31日
日刊紙によるPR	西多摩新聞 3月27日

イ 募金キャンペーン等

事業名	実施日	場所
総理緑の羽根着胸キャンペーン	4月15日	総理官邸
「みどりの日」イベント	5月4日	高尾山
みどりの感謝祭	5月10日	都立日比谷公園
緑の募金街頭キャンペーン	5月10日	数寄屋橋公園
木と暮らしのふれあい展	10月4日～5日	都立木場公園
東京都農業祭	11月2日～3日	明治神宮広場
多摩青果まつり	11月9日	国立市場
緑化運動ポスター原画・標語展	3月17日～20日	東京ビッグサイト



木と暮らしのふれあい展



緑化運動ポスター原画・標語展

(2) 苗木生産供給事業

東京都では「10年後の東京」、「東京都環境物品等調達方針」に基づき、市街化区域内の農地を活用した緑化用苗木の生産供給を行っている。財団は都からの業務委託により、以下の項目について事業を実施した。

① 苗木の購入

新たに委託する緑化用苗木の購入を行った。

区 分	計 画	実 績	備 考
購入本数	300,000本	購入本数合計 297,120 本 (購入樹種40樹種) 新規委託に占める都内産苗木の購入比率 約84.7%	公共事業・施設向けに苗木の購入を行った。このうち 新規委託を実施したものは 284,873本(10月、11月、3月購入)である。

② 栽培管理委託

苗木の栽培管理作業は、都内12JAに委託して実施した。

なお、管理委託に併せて掘取運搬作業の委託も行った場合、割安な掘取運搬経費となるため、5JAに掘取運搬作業の委託を併せて行い、経費の縮減を図った。

区 分	計 画	実 績	備 考
委託面積	通年委託分 18.0 h a 新規委託分 8.0 h a	通年委託分17.5 h a 新規委託分 8.0 h a	10月、11月、3月購入分
委託本数	通年委託分622,000本 新規委託分300,000本	通年委託分628,343本 新規委託分284,873本	10月、11月、3月購入分
委託農協	12JA	12JA	5JAで掘取運搬作業実施

③ 苗木の供給

東京都の指定した供給先へ苗木を供給するため、圃場からの掘取・運搬を行った。

また、屋上や壁面等の新たな緑化事業へも供給し、都内産緑化植物のPRを実施した。

区 分	計 画	実 績	備 考
供給本数	250,000 本	208,017 本	財団運搬分205,405本(JA掘取分含む) 自力運搬分 2,612本



苗の搬入状況（10月購入：つつじ）



苗の植込状況（10月購入：つつじ）

(3) 東京の活力を創出する都市緑化の推進事業

東京の貴重な都市農地の保全、緑化に関連する事業の推進を図るため、都民・民間・J A等と協働で「緑の地産地消」をコンセプトにした具体的な都市緑化推進プロジェクトを推進した。

① 推進会議の実施

緑化関係機関と連携し、地産地消による都市緑化推進の検討及び意見交換・情報提供等を実施した。

- ・第1回 9月24日（水） 内容：都内産緑化樹の生産・利用等

② 都市緑化推進プロジェクト

○六本木ヒルズけやき坂通り花壇プロジェクト

けやき坂通りを季節ごとに東京産の花で植栽し、「緑の地産地消」を推進するとともに、都心における良好な景観形成を図った。事業を推進するにあたり、年3回の緑化検討会を開催した。

- ・第1回緑化検討会 4月9日（木） 内容：20年度植栽計画等
（緑化検討会メンバー：森ビル、J A東京植木、都花卉連、ウィズガーデン、財団）

【植栽実績】

時 期	植栽期間	テーマカラー	ボーダー部分の品種	ポット部分の品種
春花壇	4～6月	マルチカラー	ペチュニア（赤、ピンク、黄、青）	パンジー、コリウス等
夏・秋花壇	7～10月	白・紫・赤	ペンタス、トレニア、コリウス	イソトマ、ダリア等
冬花壇	11～1月	白	パンジー、シルバーレース	ハボタン、ヒイラギ等
早春花壇	2～3月	白・ピンク	パンジー、シロタエギク	スマイレ、スイートアリッサム等

○東京ドーム地産地消ガーデニングプロジェクト

東京ドームシティの白山通り沿い地区の改修工事にともない、財団の持つ屋上緑化等の技術的ノウハウ等を活用し、都内産植木を用いた緑化に協力をするため現地検討会等を開催した。

- ・プロジェクト会議 5月12日（月） 内容：改修内容等
- ・現地検討会 7月24日（木） 内容：改修工事に伴う現地確認等
- ・現地検討会 12月 3日（水） 内容：計画変更説明等

○都立神代植物公園活性化プロジェクト

農林水産部へ都立公園という新しい土俵での「農業」の新たな展開を提案し、実施内容等を検討した。

- ・プロジェクト会議 4、5、6、7、8月各1回開催 内容：実施内容等
- ・農林水産部担当者打ち合わせ会議 8、9月各1回開催 内容：事業展開方法等

6 環境保全型農業の推進事業

有機農業などの環境と調和した環境保全型農業を推進するため、優良堆肥の生産供給を行った。

(1) 堆肥生産供給事業

環境保全型農業の推進策の一環として、東京都有機農業堆肥センターにおいて優良堆肥を生産し、有機農法の実践農家への円滑な供給（有償）等を行った。また、地域の剪定枝等の未利用資源を活用した堆肥化の実証モデルプラントとして、積極的に施設や技術を公開し、循環型社会の構築に貢献した。

事業内容	計画	実績
① 堆肥生産・供給目標量	430 t	576.5 t
有償供給		512 t
無償供給 各種イベント等		5 t
② 優良堆肥生産技術の実証・展示 視察及び研修等の受入れ		224 人
③ 小袋販売		4 kg 袋 1,495 袋
一般都民向け小袋販売		10 kg 袋 507 袋

7 農林総合研究センター事業

東京都の委託を受け、東京の農林業の振興を図るため、調査・試験・研究を行うとともに、東京都の行政、普及部門との連携を図りながら、農林業者や都民に対する技術支援や情報提供を行った。平成20年度に組織を見直し、7科（分場・センター）1室を6科（分場・センター）1室に改め、研究単位を12単位から7単位に大括りとした。

また、緑化・園芸分野におけるプロジェクト研究リーダーとして、任期付副参事研究員を外部から招聘し、研究力の向上を図った。

（1）試験研究事業

東京都との委託契約に基づき、以下の課題についての試験研究業務を実施した。

①試験研究の効率的な運営・管理〔研究課題 4テーマ〕

都民の意見を反映させた研究方針の策定、研究の進行管理と評価、連絡調整、総合的な研究企画・立案等を行った。また、成果や各種情報を積極的に発信して、都民や生産者に役立つ試験研究を効率的かつ効果的に推進した。1室、4科、1分場、食品技術センター合わせて57課題に取り組み、「成果情報」109報、「研究速報」54報、「東京都農林水産技術成果選集」7報、プレス発表報などを公表したのをはじめ、3月6日に開催した農総研センター研究発表会では、12の研究成果を公表した。

②バイオ技術等を利用した東京特産品種の育成〔研究課題 6テーマ〕

植物バイオテクノロジー技術等を応用し、都民の需要に適応する野菜、花、果樹等の新品種育成や優良品種を選定し、東京特産品種の育成を図った。

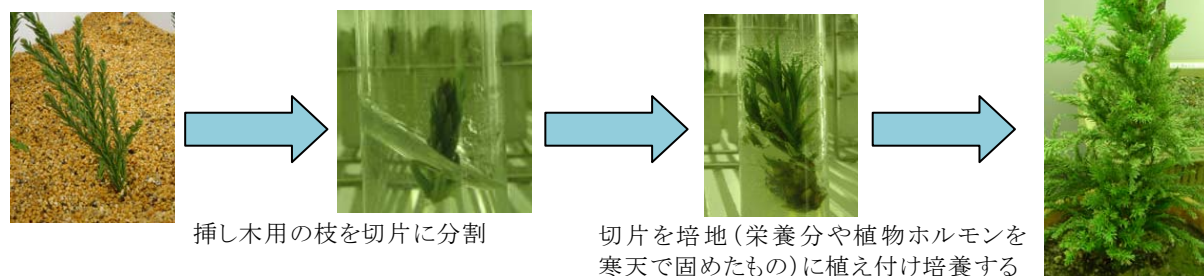


図1 組織培養による少花粉スギの増殖

東京都ではスギ花粉症対策の一環として少花粉スギ等への改植を進めている。改植には苗木を大量に確保する必要があるが、従来の挿し木繁殖では急速増殖が困難である。そこで、組織培養を利用した少花粉スギの増殖に取り組み、効率的な培養条件を明らかにした。

③高品質・高付加価値農作物の育成〔研究課題 3テーマ〕

収益力の高い農業経営を実現するため、高付加価値生産システムを開発・導入し、低農薬など、こだわり農畜産物の新商品開発に取り組んだ。



図2 新型UVカットフィルム活用で安全・安心な野菜栽培

近紫外線除去フィルム(UV カットフィルム)は害虫防除機能を有する半面、高温期には生育を軟弱にするなどの課題(写真の矢印:甲高な形のコカブ)があった。そこで、近紫外線の除去波長を見直すことにより、害虫防除機能を保持しながら、葉菜類の品質低下を最小限に抑える方法を開発した。



図3 「東京うこっけいハム」の開発

都内で飼育が拡大している東京うこっけいについて、卵を産み終えた後の有効利用を図るため、雌鶏にブロイラー用の飼料を食べさせ肉質改善を行うとともに、肉加工品メーカーと共同でハムを試作・開発した。

④園芸作物の生産性向上技術開発〔研究課題 5テーマ〕

果樹・花き生産者の収益力を高めるため、省力化や低コスト化のための栽培技術開発に取り組んだ。

⑤畜産の生産性向上技術開発〔研究課題 6テーマ〕

畜産物の安定供給と安全性を確保し、畜産経営の発展を図るため、行政や普及部門、他の試験研究機関と連携しながら、生産現場が直面する問題解決のための試験研究と技術的支援を推進した。

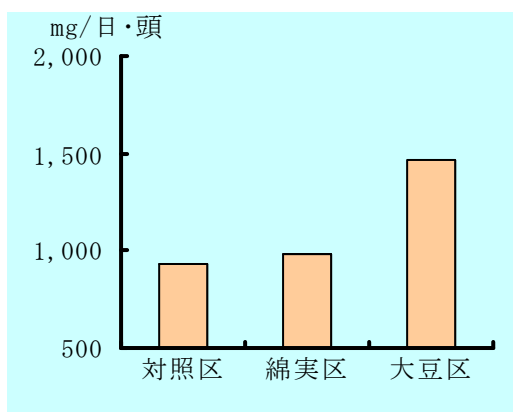


図4 牛乳中に増加した有用成分(リノール酸)

牛乳中の有用成分で、抗ガン作用およびダイエット作用などがある共役リノール酸を高める飼養技術開発に取り組んだ。その結果、大豆主体の試料を与えることで、生産性に影響を及ぼすことなく牛乳中の共役リノール酸量を高められることが判明した。

⑥農産物の安全性確保技術の開発〔研究課題 4テーマ〕

農薬や汚染物質等の農産物や環境への残留実態を明らかにするとともに、残留回避技術や農薬等の迅速分析法を開発し、安全で高機能な農産物の生産を目指した。

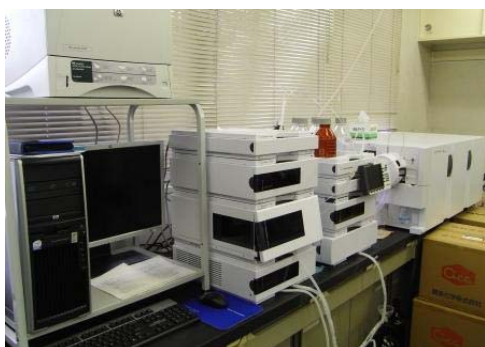


図5 マイナー作物の農薬登録拡大

東京都の島しょ地域では、さまざまな特産物を栽培している。しかし生産量が少ないため、登録農薬が少なく、適切な病虫害の防除が困難であった。そこで、農総研では作物残留試験を行って農薬の使用登録拡大に取り組んだ。

⑦病虫害総合管理技術（IPM）の開発研究〔研究課題 4テーマ〕

農作物に発生する病虫害の発生生態を明らかにし、様々な手段を組み合わせた総合的な病虫害管理技術に取り組み、農産物の安定生産や品質の向上を図った。



図6 新たに発生が確認されたOR菌によるキュウリのうどんこ病

都内のキュウリほ場で発生しているうどんこ病菌の診断を行ったところ、新しいうどんこ病菌（OR菌）であることを確認した。このOR菌は、すでに都内で広範囲で分布し、従来のうどんこ病菌が発生しなかった時期に活発に活動していることが判明した。OR菌の生態等についてはまだ不明な点も多く、早期に全容を解明し、的確な防除対策を構築していく。

⑧有機資源管理・利用技術の開発〔研究課題 3テーマ〕

農業に応用できる有機資源のリサイクル技術及び有害物質を低減化させる微生物の利用技術に取り組み、環境に配慮した農業を推進し、安全・安心な農作物の開発に取り組んだ。

⑨土壌総合管理技術及び農作物の機能性成分解明〔研究課題 5テーマ〕

環境と調和する農業生産を目指すため、農業資源である畑土壌の悪化防止や改善研究を行い、適切な土壌管理を指導・推進した。都特産作物の機能性成分を解明し、農産物の安定生産や品質向上、食の安全を図った。

⑩緑化植物を活用した都市環境改善技術の開発〔研究課題 2テーマ〕

環境緩和効果をもたらす街路樹等の緑化植物の特性及び環境適応性を解明することにより、景観形成やうるおいのある街づくりの実現を目指した。

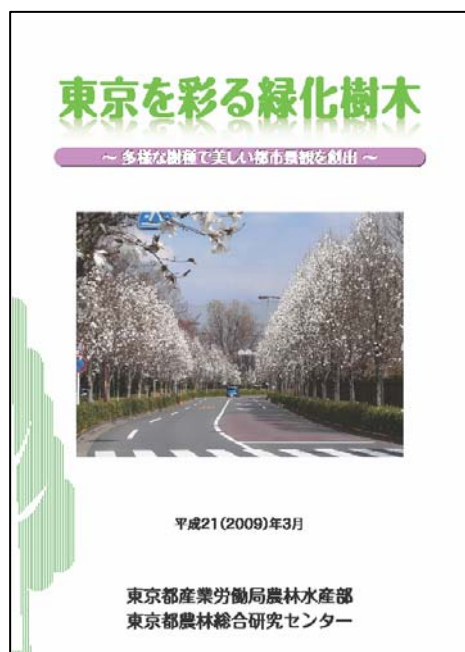


図7 美しい都市景観を創出する街路樹の選定

昭和40年代に植栽された街路樹が更新時期を迎えていることから、景観に優れるとともに、維持管理が容易な街路樹を選定し、その特性把握を行った。また、その成果について、街路樹・公園管理関係者向けの冊子「東京を彩る緑化樹木」として取りまとめた。

⑪豊かな森づくり技術の開発〔研究課題 4テーマ〕

林業経営は低迷し、東京の森林の荒廃が進んでいる中で、林業・林産業の振興及び森林の保全・育成のための技術開発を通じて、地域の活性化と都民生活の安定に貢献した。



図8 列状間伐と高性能林業機械の組み合わせによる低コスト化

間伐材搬出の低コスト化をめざして検討した結果、列状間伐と高性能林業機械の組み合わせは、定性間伐と比較し2倍以上効率的であることが判明した。

⑫江東地域における高度集約型園芸技術の開発〔研究課題 3テーマ〕

江東地域の農業振興を図るため、地域の基幹品目であるコマツナや鉢花などの高品質生産技術開発ならびに江戸伝統野菜の安定生産技術の向上に努めた。



図9 夏まき用コマツナ品種の選定

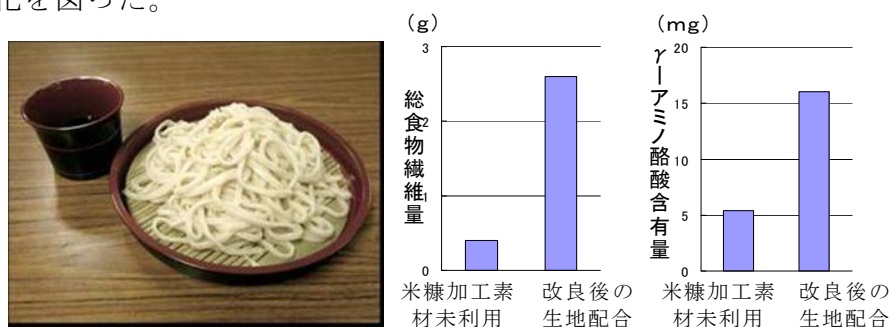
江東地区が発祥のコマツナは、もともとは12月から2月に収穫され、「冬菜」「雑煮菜」「うぐいす菜」と呼ばれていた。しかし、最近では品種改良が進み、周年栽培が行われているが、夏場は生産が難しい作型の一つである。そこで、品種検討会を開催し、作業性に優れ、収量性、市場性とも高い夏向け品種を選定した。

⑬食品の安全性確保技術と機能性食品の開発〔研究課題 4テーマ〕

安全・安心な食品づくりを支援するための新技術の開発や健康増進に繋がる機能性成分に関する研究を進めた。

⑭地域の資源を利用した食品の開発〔研究課題 4テーマ〕

地域の農水産物資源を有効活用する技術や東京ブランド食品を開発し、地域産業の活性化を図った。



麺が短化するなどの問題を解決して開発された米糠入りうどん。米糠を練りこむことで総食物繊維、γ-アミノ酪酸(GABA)などの機能性成分が付与された。

図10 米糠入りうどんと機能性の付与

(2) 受託研究事業

研究のための資金を外部から積極的に獲得し、受託研究、企業・大学等との共同研究を推進した。また研究外部資金として、71,274千円を獲得した。

共同研究

契 約 先		契約件数
A	プロジェクト研究	8
B	独立行政法人研究所、農水省	1
C	大 学	1 2
D	公益法人、団体等	2
E	民間企業	2
合 計		2 5

(3) 調査・分析等業務

東京都からの6課題の委託試験を受け、調査・分析等業務を行った。

(4) 技術相談・依頼試験・試験機器の利用公開

生産者等からの技術相談に応じるとともに、依頼を受け、分析等の業務を行った。また、食品技術センターの研究設備を貸し出して、食品企業等の研究開発に資した。

①技術相談

電話相談等で2,012件、来所相談で1,054件、合計3,066件の技術相談を行った。

②依頼試験

要請のあった依頼試験383件を実施し、1,796,906円の歳入であった。

③開放試験室の活用

開放試験室設備機器の充実と適正な管理に努め、また、利用者の利便性の向上を図りながらの活用に努めた。平成21年度利用においては、1,231件の利用があり、使用料歳入は、246,450円であった。



<都民とのふれあい>



農林水産フェア

(イモ掘り体験、農産物直売など:10月開催)



家畜ふれあいデー

(乳搾り体験、ひよこコーナーなど:4月・10月開催)

8 情報提供・普及啓発事業

農林水産業に関する情報提供やイベント等を通じた普及啓発事業を行った。

(1) 森林総合利用事業

都民が森林に親しみ、都市と山村の交流を深めることにより、都民参加の森づくりを推進していくため、体験学習などのイベントを計10回実施した。

平成20年度 森林総合利用事業の実績

回	名 称	内 容	時 期	場 所	天候	参加人数
1	第1回森林ふれあい教室	森づくりの紹介	5月17日(土)	檜原村	雨	45
2	第1回森林浴登山 <u>(中止)</u>	森林観察	5月20日(火)	金袋山	雨	-
3	奥多摩！～ハイキングと援農体験～	森林観察・作業体験・山村交流	7月5日(土)	奥多摩町	晴	22
4	第2回森林ふれあい教室	昆虫観察	7月25日(金)	旧林業試験場	晴	52
5	森林づくり親子体験キャンプ	間伐体験・川遊び・木工教室等	7月30～31日	奥多摩町	晴	28
6	第2回森林浴登山	森林観察	9月27日(土)	笹尾根	曇	40
7	野生キノコ教室	観察・講義	10月3日(金)	旧林業試験場	晴	25
8	第3回森林浴登山 <u>(中止)</u>	森林観察	10月24日(金)	金袋山	雨	-
9	第3回森林ふれあい教室	木登りと木工クラフト	11月16日(日)	旧林業試験場	曇	52
10	第4回森林浴登山	森林観察	11月29日(土)	高水三山	晴	35
11	第4回森林ふれあい教室	竹細工と自然観察	1月17日(土)	旧林業試験場	晴	18
12	第5回森林ふれあい教室 <u>(中止)</u>	シイタケ作りと自然観察	3月20日(金)	旧林業試験場	雨	-
13	第5回森林浴登山	森林観察	3月28日(土)	陣馬山	曇	32
合 計						349



爽秋の笹尾根森林浴登山

【森林浴登山】

～森林観察とハイキング～

- ◇ 奥多摩！ハイキングと援農体験（7月5日）
- ◇ 爽秋の笹尾根（9月27日）
- ◇ 初冬の高水三山（11月29日）
- ◇ 早春の陣場山（3月28日）

【野生キノコ教室】

～野生キノコの標本観察と講義～

- ◇ 農林総合研究センター日の出庁舎
（10月3日）



野生キノコ教室



森林ふれあい教室（木登りと木工クラフト）

【森林ふれあい教室】

～日の出試験林を活用した各種体験教室～

- ◇ 森づくりの紹介（5月17日）
- ◇ 昆虫観察（7月25日）
- ◇ 木登りと木工クラフト（11月16日）
- ◇ 竹細工と自然観察（3月22日）

【森林づくり親子体験キャンプ】

～小中学生の親子を対象に下刈体験や
川遊び等を実施～

（7月30日～31日）



森林づくり親子体験キャンプ

(2) 総合情報提供事業

東京農業WEBサイト、東京森と木WEBサイト、財団ホームページを連携して、都民に対して農林水産業、特産品、食の安全安心等の情報を総合的に提供した。

① 東京農業WEBサイト運営事業

東京の農業や農地の働き、農畜産物・特産品、食の安全・安心などの都民向けの情報を発信するために、東京都、農業団体等が構築したWEBサイト運営委員会より管理・運営を受託した。総アクセス件数 73万件。

② 東京の森と木・総合サイト運営事業

都民への森林・林業の普及啓発、木製品・特産品等の情報発信のため、東京都、多摩地域の自治体や森林・林業に関する団体が構築したWEBサイトの管理・運営を受託した。

本サイトは、年間アクセス件数も20万件を超え、さらには、19年度末に行われた第42回林業関係広報コンクール（主催：全林協）において、最優秀賞（林野庁長官賞）を受賞し、5月28日に授賞式が行われた。

また、10月1日よりスポンサーバナーを開始し、5件スポンサー契約を締結した。

③ ホームページ制作事業

森林・林業についての普及啓発の一環として、東京都森林組合のホームページ制作を受託し、ホームページの企画・制作、管理を行った。



「東京農業WEBサイト」
<http://tokyonogyo.tama.jp/>



「東京の森と木」
<http://www.tamamori.jp/>

(3) 食育推進事業

国の食育基本法、都の東京都食育推進基本計画のもと、学校教育現場で行う生産体験学習の支援を行い、都民の農業や食物に対する理解を深める食育を推進した。

① 講師派遣型による生産体験学習の推進

東京都が指定した小学校 8 校に対し、講師派遣や資材導入、教材作成等の支援を行い、学校における生産体験学習を実施した。

実 績		内 容			
学校に対する支援	8 校	品川区立浅間台小学校	5, 6 年生	41 名	水稻・野菜栽培
講師派遣	8 校	江戸川区立南葛西第二小学校	5 年生	115 名	水稻栽培
教材作成等	8 校	江戸川区立南篠崎小学校	1～6 年生	700 名	野菜栽培
		日野市立日野第四小学校	1～5 年生	526 名	野菜・水稻栽培
		東久留米市立第九小学校	1～5 年生	477 名	水稻・野菜栽培
		自由学園初等部	1～6 年生	243 名	野菜栽培
		三鷹市立南浦小学校	1～6 年生	525 名	水稻・野菜栽培
		江東区立東雲小学校	5 年生	56 名	水稻栽培
		計 8 校		2, 683 名	

② 学校外体験型による生産体験学習の推進

東京都が指定した小学校 9 校に対し、資材導入、教材作成等の支援を行い、地域の農業者と子供たちとの交流を含めた学校外の農地での生産体験学習を実施した。

実 績		内 容			
学校に対する支援	9 校	品川区立立会小学校	5 年生	85 名	水稻・野菜栽培
教材作成等	9 校	府中市立府中第十小学校	1～6 年生	757 名	水稻・野菜栽培
		日野市立東光寺小学校	1～6 年生	498 名	水稻・野菜栽培
		調布市立調和小学校	5 年生	82 名	水稻栽培
		三鷹市立北野小学校	1～6 年生	604 名	野菜栽培
		足立区立中川東小学校	1, 2, 5 年生	435 名	水稻・野菜栽培
		東村山市立回田小学校	1, 2, 3, 5 年生	349 名	水稻・野菜栽培
		足立区立鹿浜小学校	5 年生	47 名	野菜栽培
		計 9 校		2, 857 名	



講師派遣型による生産体験学習
(田植え：江戸川区立南葛西第二小学校)



学校外体験型による生産体験学習
(稲刈り：品川区立立会小学校)